

---

## 一般論文

---

# 小学校における教師と児童のほめ認知のズレについて

## Perception Gap in Praise between Elementary School Students and Teachers

山 本 幸 奈, 中 野 隆 司

YAMAMOTO Yukina, NAKANO Takashi

### 概 要

「ほめ認知のズレ」とは、教師が子どもに対してほめた意図が実際には伝わらずに教師と子ども間に認識のずれが生じることを指す。ほめることには、相手の動機づけ・意欲などを高める効果もあると考えられるが、「ほめ認知のズレ」があるとその効果も減じてしまうと予想される。そこで、小学校における「よいほめる行為」ができるための手がかりを得ることを目的とし、調査を通じて小学校の児童と教師の間における「ほめ認知のズレ」実情を探った。その結果、「ほめ認知のズレ」が存在する可能性が明らかになり、質の高い（ズレのない）ほめ行動の重要性が示唆された。

### 問題と目的

筆者（山本）は、これまでの経験から、教育現場において、叱ることよりもほめることの方が大切だと考えている。なぜなら、叱られる時よりほめられる時の方が教師と児童のどちらも良い気持ちでいられ、嬉しくなるからである。また、児童はよりやる気になり学習や物事に対する意欲向上につながると考えられる。しかし、ほめる際に、ほめる教師とほめられる児童の間にほめについての認識のズレがあれば効果は半減してしまうであろう。「ほめ認知のズレ」とは、教師が子どもに対してほめた意図が実際には伝わらずに教師と子ども間に認識のずれが生じることを指す。

高崎（2017）や高崎（2018）では、ほめ理由認知のズレやほめ態度の発達的变化について論じている。

高崎（2017）では4年制大学の教職科目をとっている大学生の協力のもと、小・中学校の仮想場

面として「あなたは小学校/中学校でのインターンシップに参加し、クラス担任の先生の授業を参観しました。授業中、先生の質問に対して、ある子どもが手を挙げて発言し、先生はその子をほめました。」という設定で、ほめる側、ほめられる側、第三者の立場に分かれ、その場では何が褒めの対象として認知されているのかをたずねる質問紙調査を行い、ほめ理由認知のズレについて考察している。発表者がほめられた理由として、「内容が優れていた（優秀）」「ある程度のレベルに達していた（基準）」「発表の仕方が良かった（態度）」「努力のあとが見られた（努力）」「普段から意欲的である（人格）」「今後も積極的に発表してほしい（継続）」「発表者の自信になる（自信）」「信頼関係を築くため（関係）」の8つを設定し、ほめる側、ほめられる側、第三者にほめる理由としてどれがどのくらいあてはまるかを評価してもらい、その得点を集計した。その結果、人格・関係<基準・継続・自身<優秀・態度<努力の順で得点が

高く、ほめられる側と第三者よりもほめる側の得点が高いという認知のズレが見られた。

一方、高崎（2018）では、中学生、高校生、大学生、成人を対象に、ほめへの態度とほめ/ほめられ経験に関する質問紙調査を行い、「ほめへの態度」の発達的变化を考察している。結果は、「ほめへの態度」は年齢とともに「承認重視」「用い方重視」の態度が強くなり、「基準重視」「表出躊躇」の態度が弱くなることが明らかになっている。また、「ほめへの態度」形成に影響を与えるほめ/ほめられ経験について検討した結果として、ほめられた経験の量よりも、どのようにほめられたかという経験の質から直接影響を受けることが明らかになっている。

以上から、ほめる場面において、小学校の児童と教師の間にもほめ認知のズレが起きている可能性があることが示唆されるが、ズレがあればせっかくの「ほめる」というよい行為が無駄になってしまう。また、ほめられた経験の質が重要であることも示唆されていることから、とくに経験の浅い小学生にとって質の高いほめられ体験は重要であろう。そこで小学校における「よいほめる行為」ができるための手がかりを得ることが本研究の目的である。実際の小学校現場において、教師・児童は、ほめること・ほめられることについてどう認識しているのか、教師と児童の間にほめ認知のズレはあるのか、などを調査し、考察する。

## 研究方法

### 1. 観察調査

#### (1) 調査協力者

Y県私立Y小学校の教師と児童（2、4、6学年）

#### (2) 調査時期

平成30年6月～9月（各学年4回ずつ）

#### (3) 調査の手続き

2、4、6学年の1クラスを対象に、授業観察を行い、教師が児童をほめた時をチェックし、授業後、ほめられていた児童に、①「ほめられていると感じたか」、その後、可能であれば、②（ほめられたと感じていたら）「どんな気持ちだったか」、（ほめられていないと感じていたら）「なぜそう思うのか」をたずねた。また、その

児童がほめられたことによって、他の児童への影響・相乗効果があったかどうか、観察やアンケート、インタビュー調査結果からよみとることとする。また、教師には、気になった場面があった場合に授業後にその場面について質問した。

### 2. アンケート調査

#### (1) 調査協力者

Y県私立Y小学校の教師と児童

#### (2) 調査時期

平成30年7月～9月（児童）  
7月～10月（教師）

#### (3) 調査の手続き

##### 1) 児童

調査対象者

Y県私立Y小学校の児童（2、4、6学年）

調査内容

質問1…あなたが今までほめられた時に、言われた言葉やできごとで覚えていることは何かありますか。（いくつでも）

質問2…1の質問で書いたほめられた時、あなたはどのような気持ちになりますか。（いくつでも）

実施人数 204人

回答人数 204人

回答率 100%

##### 2) 教師

調査対象者

Y県私立Y小学校2、4、6学年の担任をもつ教師

調査方法

紙面でのアンケート調査（一部の教師には同内容のインタビュー調査）

調査内容

質問1…学校生活の中で児童をほめる時、どういった意図や理由でほめることが多いですか。

質問2…学校生活の中で、児童をほめた時に印象に残った出来事がありましたら、その時の様子をできるだけ詳しく教えてください。

質問3…児童との間に、ほめた意図や理由に

ついてズレを感じたことがありますか。そう感じた時は、どういう時でしたか。また、そう感じた時どのように対応しましたか。

実施人数 6人

回答人数 5人

回答率 約83%

### 3. 倫理的配慮

調査は対象者の同意に基づき、また、個人情報 は厳重に取り扱った。本研究は山梨学院短期大学研究倫理委員会の承認を得ている（承認番号2018019）。

## 結果と考察

### (1) 観察調査

今回、観察調査をした中で、気になったり印象に残ったりした、いくつかほめの場面を考察していく。

ほめられたと感じた場面（学年・教科・性別・全体の前でほめられたか、個別にほめられたか）

#### 場面1（2年生・国語・男子児童・全体）

漢字練習をしている際、教師に「〇〇くん、今日いいね。調子いいね。集中してる。」と言われていた。

- ①集中していることを、ほめられたと感じた。
- ②普段は、あんまりほめられないからうれしかった。

#### 場面2（2年生・国語・男子児童・全体）

練習した漢字がしっかり書けているか確認する場面で、教師が「〇〇くんすごいよ、もう9個合格。」その後、ある漢字がわからなくて間違えてしまった。「でも、9個合格すごいよ。A（評価）だよ。」と言われていた。

- ①ほめられたと感じた。
- ②うれしい。

#### 場面3（2年生・国語・男子児童・全体）

漢字の確認の紙が2枚目になった時、教師が「2枚目いきます。〇〇くんです。おめでとうございます。(拍手)」と言われていた。

- ①う～ん…まあまあ感じた。
- ②うれしかった。

#### 場面4（2年生・国語・女子児童・全体）

授業中漢字チェックができた時に、「やればできるじゃん、〇〇さん。」と言われていた。

- ①やればできるじゃんとは言われたけど…
- ②やったーって思った。

#### 場面5（4年生・社会・男子児童・全体）

教師が何か指示を出した時に、その児童だけ返事をした際「〇〇くんは、いつも返事をしてくれる。」と言われていた。

- ①ほめられたと感じた。
- ②うれしい。

→その後、返事をする児童が増えた。

#### 場面6（4年生・算数・女子児童・個別）

机間巡視の際に、「きれいにノートとるね、〇〇ちゃん。」と言われていた。

- ①ノートのことを、ほめられたと感じた。
- ②うれしかった。

#### 場面7（4年生・社会・女子児童・全体）

授業中、「いい姿勢だね。」と教師に言われていた。

- ①ほめられたと感じた。
- ②うれしかった。

→その後、姿勢をよくする児童が増えた。

#### 場面8（4年生・社会・男子児童・全体）

授業で、発表をした際に、大きな声や、身振り手振り、しずかに礼をしたこと等をほめられ、内容も「根拠があることが素晴らしい。」と言われていた。

- ①ほめられたと感じた。
- ②うれしかった。

#### 場面9（6年生・国語・女子児童・個人→全体）

机間巡視の際、プリントの問題が解き終わった女子児童のグループが、教師「3番まで終わった？」児童「うん」教師「やったー、終わった。見せて見せて。…そうそう。」と言われていた。

- ①まあ感じた。
- ②（聞き取りできず）

→その後、教師が、「あそこのグループがで

きているので、あそこに教えてもらえ。」  
とクラス全体に言ったので、聞きにくる児童が何人かいた。

#### 場面10（6年生・国語・男子児童・全体）

プリントの答え合わせの際、男子児童が発言した言葉に対し「先生、それに気づかなかった。先生の中で〇〇、お前、今日すごいな。」と言われていた。

- ①ほめられたと感じた。
- ②（聞き取りできず）

ほめられたと感じなかった場面（学年・教科・性別・全体の前か、個別でほめられたか）

#### 場面1（2年生・国語・男子児童・全体）

ほめられたと感じた場面3の出来事があった後に、「お、〇〇くんも2枚目だ！いいね。」と教師に言われていた。

- ①ほめられたと感じなかった。
- ②言われたけど、ほめられたとは思わなかった。

#### 場面2（4年生・社会・女子児童・全体）

クラスの仲間が発表する時に、「さすが、〇〇さん。メモをとる体制に入ってるっしょ。」と教師に言われていた。

- ①ほめられたと感じなかった。
- ②いつものことだから、特別ほめられたとは感じなかった。

#### 場面3（4年生・社会・女子児童・全体）

ほめられたと感じた場面6の児童と2人同時に、授業中、「いい姿勢だね。」と教師に言われていた。

- ①ほめられたと感じなかった。
- ②言われたけど、ほめられたと感じなかったから。

#### 逆説的意味でほめられていた場面

#### 場面1（4年生・算数・男子児童・全体）

授業の前にある男子児童が、授業が始まってから教科書をロッカーに取りに行った時に、「しっかり準備しててえらいな。」と教師が言葉をかける。

#### 場面2（4年生・算数・男子児童・全体）

教師が、板書した際にノートに書かない子がいた。その時、教師がその児童に対し、「すぐにノート書いててえらいな。」と言葉をかけた。

#### 《考察》

以上から、ほめられたと感じる場合には、

- ・「〇〇さん、+ほめ言葉。」のように、名前も付けてほめられるとほめられたと感じる場合が多い。（場面1、2、3、4、5、6、10）
- ・ほめ慣れない子は、些細なことでもうれしいと感じる。（場面1、4）
- ・意識していたことを、ほめられた時にほめられたと感じる場合がある。（場面5、6）ということが考えられる。

逆に、ほめられたと児童が感じない場合では、

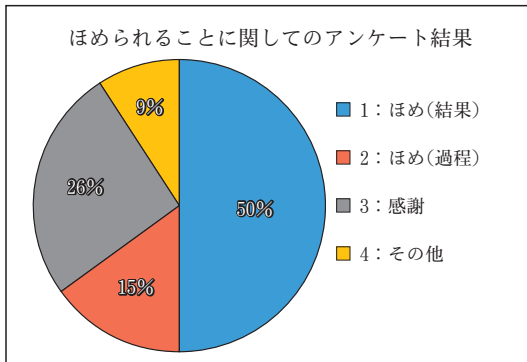
- ・よくほめられる児童は、なんとも思わなかったり嬉しく感じたりしないこともある。（場面2）
- ・名前を付けずに、全体でほめられた際に自分のことだと感じない児童がいる。（場面3）
- ・意識しないでいたことを、ほめられた時はほめられたと感じない場合がある。（場面1、3）などが明らかになった。

また、ほめられた際に児童は感謝の言葉を口にするわけではないが、笑顔になったり、表情が明るくなったりする様子が多く見られた。ほめられた際に、ほめられたと感じない児童では、顔の表情を変えない児童もいたが、嫌な顔を見せるわけではなく、笑顔になる様子も見られた。学年ごとに見ていくと、授業中ほめる言葉の回数は、多少の差ではあるが、低学年になるほど多く、逆に高学年になるほど少なくなることも観察できた。低学年では、児童がほめられても教師に対して子どものような扱いをされているとは思わないと思うが、高学年では、子どものような扱いをされていると感じることもあるからではないかと考えた。

## (2) アンケート調査

## 1) 児童・質問1の結果

質問1…あなたが今までほめられた時に、言われた言葉やできごとで覚えていることは何かありますか。(いくつでも)



質問1の回答を、ほめ(結果)、ほめ(過程)、感謝、その他の4つに分類した。

ほめ(結果)は、児童ができたことに対してその結果をほめることである。例えば、「テストで100点をとれた時に、すごいねとほめられた。」というような回答が該当する。ほめ(過程)は、児童ができたことやしたことに対し、

その結果ではなく、過程をほめることである。例えば、「テストを返された時に、『前回よりも努力したね。』と言われた。」というような回答が該当する。感謝は、ほめるというよりは児童に感謝した言葉をかけられることである。例えば、「先生のお手伝いをした時に、『ありがとう。』と言われた。」というような回答が該当する。最後の、その他は、友人から言われた言葉や自分の親、塾や習い事の先生からの言葉の回答が該当する。今回は、学校生活の中の先生から言われた言葉に限定したので、ほめられた際の出来事だが、その他と分類する。

まず、「すごいね」や「がんばったね」等の、ほめの言葉が児童に印象が残っていることが回答の6割を超えていた。その中でも、結果をほめられることが、児童はほめられたと感じるようだ。また、「ありがとう」や「助かった」等と、感謝の気持ちを言われることもほめられていると感じている回答が、3割近くあった。その他に分類された回答は、友達から言われた言葉や自分の親など教師以外からの言葉掛けだった。

回答例をいくつか抜粋して挙げていく。

## 分類1：ほめ(結果)

授業で歌っていたら「キレイだね」と言われた。
サッカーでシュートを決めて「すごい」といわれた。
美術の授業で描いていて、絵が「いいよ」といわれた。
読解の時に、うまく答えが書けたら「模範解答と同じですごい」と先生からほめられた。
伴奏がとても感動的だと学年や音楽の先生にほめられた。
発言をした時に先生に「いいこと言うね!」というふうに言われた。
テストでいい点をとれた時「よく書けていたよ、良かったよ。」と言われた!
みんなの前で発表した時に「よかったよ、ありがとう。」と言われた。
人より速いな
ロッカーがきれいだった時に「おお、きれいだなあ」と先生に言われた
縄跳びの二重跳びができた時に「すごい」と先生から言われた。
賞をとった時に先生や友達に「すごいね」と言われた
計算がはやくなって先生に「はやかっただね、すごい」と言われた
難しい課題をクリアした時に先生に「すごいじゃん!よくできたね」と言われた
クラスで一人、問題が解けた時、先生に「さすがだね、すごいね」と言われたこと
色々知ってるね
良い感してるね
小さい子と遊んでいた時、「きくばりができていてすごいね」と言われた
行動がはやいな

めんどう見がいいね
美術の授業で絵を描いた時に、先生に「上手だね」と言われた
授業で歌っていたら「キレイだね」と言われた。
サッカーでシュートを決めて「すごい」といわれた。
美術の授業で描いていて、絵が「いいよ」といわれた。
読解の時に、うまく答えが書けたら「模範解答と同じですごい」と先生からほめられた。
伴奏がとても感動的だと学年や音楽の先生にほめられた。
発言をした時に先生に「いいこと言うね!」というふうに言われた。
テストでいい点をとれた時「よく書けていたよ、良かったよ。」と言われた!
みんなの前で発表した時に「よかったよ、ありがとう。」と言われた。
人より速いな
ロッカーがきれいだった時に「おお、きれいだなぁ」と先生に言われた
縄跳びの二重跳びができた時に「すごい」と先生から言われた。
賞をとった時に先生や友達に「すごいね」と言われた
計算がはやく終わって先生に「はやかっただね、すごい」と言われた
難しい課題をクリアした時に先生に「すごいじゃん!よくできたね」と言われた
クラスで一人、問題が解けた時、先生に「さすがだね、すごいね」と言われたこと
色々知ってるね
良い感してるね
小さい子と遊んでいた時、「きくばりができていてすごいね」と言われた
行動がはやいね
めんどう見がいいね
美術の授業で絵を描いた時に、先生に「上手だね」と言われた
友達のををなおしたら「指きようだね」と言われてとてもうれしかった
えらいね、上手だねと言われた
テストで100点をとった時「おお、すごいね」とほめられた
漢字テストで100点をとった時に「すごい」と言われた
ランチの時、時間がすぎていて友達のランチを置いたら、先生に「やさしいね」と言われた
自主勉強をノートにやってきた時に先生のコメントで「すごい」と言われた
朝、先生に「おはようございます」と元気にあいさつをしたら「元気だね」と言われた
テストの点が良かった時に、先生によくできたじゃんと言われた
絵を描いていた時に「絵が上手だね」と言われた
ランチの時、野菜を増やしたら「おお、すごい!」と言われた
いつもより早く給食が食べ終わった時に、先生に「すごいね」といわれた
個性的だね
リーダーシップがあるよね
ランチでおかわりをしたら「○○ちゃんいいぞ～」と言われてうれしかった。
時間を守ってえらいね
色んな人に分からないところを教えていたら、先生に「すごいね!まるで先生みたいだね」と言われた
授業中、なぜそう思ったのか説明をしたら「説明が上手」と言われた
漢字テストで、字をきれいに書いたら「字がきれい」と言われた
社会の時にパソコンで説明を書いていたら、いいこと書いてるじゃんと言われた
先生に数の時、「ノートが見やすい」と言われた
先生に、社会の時に「姿勢がいい」と言われた
担任の先生に、身体の授業で「いい声!」と言われた
「ロッカーの整理整頓をいつもしていいいね。」と言われた
社会でパワーポイントを発表したら「すばらしい」と言われた
すごいじゃん
よかったです
数の授業で80点ぐらいをとった時ほめられた



「すごいね」と言われた
クラスリーダーで注意をしたらほめられた
テストで点数がとれた時に、先生によくできたねと言われた
よくできたね
いっぱい本を読んでいるね
数の授業終わりに私が一番大きな声で「ありがとうございました」と言ったので、先生が「いいあいさつだったね」と言ってくれた
連絡帳を見せた時、先生に「たっぴつできれいな字。じゃあ、きれいに書けていない人に教えてあげて」と言われた
1年生の頃、先生にたねの自由研究でアボカドの種を見せたら「大きいね。」と言われた
ランチでお皿を真っ白にしたら「うつくしい」と言われた
生活の授業で日直の時に「号令がしやすいね」と言われた
話をよく聞いているね
優しく注意ができているね
授業を集中してうけた時
片付けが早くて「やらせてよかった」
色んな花を知っていたら「ものしり」と言われた
音楽の授業で友達だけでやったら「すごいね」と言われた

### 《考察》

この結果からも分かるように、児童は、できたことに対し素直に「すごい」と言葉をかけられることが、ほめられていると感じるようである。回答の一つにあった「漢字チャレンジが2枚目に言ったから『おめでとう！』と言われた」という回答は、実際に観察調査をする中

で、観察することができた。また、気になった回答として「1年生の頃、先生にたねの自由研究でアボカドの種を見せたら『大きいね。』と言われた」というものがあった。自分自身のことではなく、自分が関わったものに対し、言葉をかけられることも、児童はほめられたと感じるのだなと知ることができた。

### 分類2：ほめ（課程）

委員会の時に黒板に書いたりすることやどういいう話をするか、くわしい計画を立てて紙に書いておいたら、先生から「そういう態度がとても立派だ」とほめられた。
漢字10問テストと四字熟語テストの勉強をノートにたくさん練習したら、先生がそのノートに「力がつく勉強法で <u>努力する姿</u> が素晴らしい」と書いてくださった。
先生に、 <u>いつも</u> あいさつをきちんとしているねといわれた。
テストで良い点数がとれた時に先生に「 <u>がんばった</u> ね」と言われた。
先生に算数の時、教えられた通りにやったら「 <u>やれば</u> できるじゃん！」と言われた。
国語の授業の時、プリントをていねいに書いて、プリントをていねいにしたら「 <u>いつも</u> ていねいだね！」と言われた。
先生に「 <u>できるようになった</u> ね」と言われたこと
<u>やれば</u> できるじゃん
テストで100点がとれた時に先生に「 <u>がんばった</u> ね」といわれた
美術の時に描いた絵を見せたら、先生に「 <u>がんばった</u> ね」と言われた
プロジェクトのプレゼンテーションがうまくいった時「よく <u>がんばった</u> ね」とか「 <u>前回</u> よりすごくよかったよ」と言われた
<u>よく</u> やってるね
テストをがんばった時に、「 <u>がんばった</u> ね」と言われた
テストで良い点がとれた時に、先生に「 <u>よくがんばった</u> ね」と言われた
社会で先生から「 <u>よく調べた</u> ね」と言われた
テストで良い点数がとれた時に「 <u>よくがんばった</u> じゃん」と言われた

よく <u>がんばった</u> ね
<u>がんばった</u> な
保健のテストで良い点数がとれた時に「 <u>がんばりました</u> ね」と言われた
<u>上達した</u> ね！
<u>がんばった</u> ね
朝、毎日あいさつを大きな声で言っていたら先生に「いいね」と言われた
テストで先生に「お～ <u>がんばった</u> ね」
<u>がんばった</u> ね
テストで良い点がとれた時に <u>がんばりました</u> ね。と言われた
ノートをきれいに書いたときにノートをきれいに <u>書けるようになった</u> ね
字が <u>きれいになった</u> ね
ランチの時に、 <u>がんばった</u> ね
100点をとった時、よく <u>がんばった</u>
字が「 <u>ていねいになった</u> ね」と言われた
ランチで嫌いなものをがんばって食べた時に「 <u>がんばった</u> ね！すごい！」と言われた
先生にテストで良い点数をとった時に、「すごいね、よく <u>べんきょうした</u> ね」と言われた
テストで100点をとった時に「よく <u>勉強した</u> ね」と言われた
先生が漢字の100問テストの丸付けをした時に、横を通ったら「〇〇テスト <u>がんばった</u> ね」と言われた
テストを返された時、先生が「よく <u>がんばった</u> な」と言ってくれた
自主学習をやってきて先生に見せた時に、「よく <u>がんばった</u> ね」と言われた
先生に、テストを返された時に「 <u>前のテストより</u> もいい点数がとれたね」と言われた
<u>いつも</u> がんばってるね
「 <u>がんばった</u> ね」と言われた
ピアノをやったら「 <u>がんばった</u> ね」
テストで良い点数がとれた時に先生に「よく <u>がんばった</u> ね」と言われた
よく <u>がんばって</u> たね
テストで100点をとって「 <u>がんばった</u> ね」とほめられた
字が <u>うまくなった</u> ね
<u>がんばった</u> ね！

### 《考察》

これらの回答から、過去の自分と比べて「がんばったね」と言われたり、いつも継続してやっている事柄に対して「いつも」「よく」と付け

られてほめ言葉を言われたりすると、児童は、しっかり自分のことを見てくれているのだという気持ちになるようだ。

### 分類3：感謝

先生のお手伝いをした時に「ありがとう。たすかったよ。」と言われた。
ありがとう
ありがとう（サンキュー）
とても助かったよ
長い時間ありがとう
先生のお手伝いをした時に「ありがとう」と言われた
いつもありがとう
学校の掃除をしてたら先生に「ありがとう」と言われた。
先生にプレゼントをあげたら「ありがとう」と言われた
プリントを配った時に先生に「ありがとう」と言われた。
授業の後に何人かのいすをしまった時に、先生に「ありがとう」と言われた
この前学校の先生に「1年生や2年生の面倒を見てくれてありがとう！」と言われた



給食後のそうじで他学年の場所をそうじしたら「ありがとう」といわれた
置いてあったイスを片付けた時に「ありがとう」と言われた
教室の電気を消した時に、先生に「ありがとう」と言われた
ドアが開いていてドアを閉じたら、先生に「ありがとう」といわれた
大縄を片付けたら、先生に「○○ちゃん、ありがとう」といわれた
ロールカーテンが下りていなかったから下ろしたら、先生に「ありがとう」といわれた
ランチの時、牛乳を運でいたら先生に「ありがとう」といわれた
水道のじゃぐちがあいていたからしめたら「ありがとう」といわれた
自分からそうじをした時に「ありがとう」とほめられた
先生に「ここはいて」と言われた時はいたら「ありがとう」と言ってもらった
落ちていたものを拾ってあげたら「あっ、気付かなかった、ありがとう」と言われた
身体ソフトボール投げの距離を測った時に、先生に「ありがとう」と言われた
そうじの時に最後までやったら「最後までありがとう」と言われた
何かを教えてあげて「ありがとう」と言われた
椅子が倒れていた時にイスを直したら「ありがとう」と言われてうれしかった。
そうじの時に「ありがとうございます」と言ったら「トイレをきれいに使ってくれてありがとう」と言われた
先生がランチの時、いつものところにイスがなくて探していたので「ここにありますよ」と言ったら「ありがとう」と言ってくれた
副校長先生に感謝の手紙を書いたら「ありがとう」と言ってくれてうれしかった
先生からのお願いを引き受けた時に「ありがとう」と言われた
最後まで掃除をしていたら、「最後までありがとう」と言われた
したくが終わってみんなの手伝いをしている時や上着を配っている時にありがとうと言われた
パソコンを使った後に延長コードを借りた人が返し忘れて、先生にどこに置けばいいか聞くと「ありがとうね」と言われた
ランチの時のはいぜんを手伝い終わった後に、「手伝ってくれてありがとう」と言われた
マイラーニングノートを配ろうとしたら、先生に「ありがとう」と言われた
T S中にそうじをしたとき「ありがとう」と言われた
つくえを毎日ふいていたら先生に「毎日ありがとう」とほめられた
音楽の授業でオルガンを最後まで片付けて「ありがとう」と言われて、とてもうれしかった
給食の後、友達の食器を片付けてあげたら友達にも先生にもありがとうとほめられた
先生のお手伝いをやってほめられた
先生の手伝いをして「ありがとう」と言われた
漢字の学習ノートを運んだら「ありがとう」と言われた
先生に言われる前にテーブルをふいたら「ありがとう」と言われた
ランサボの班のテーブルをふいたら「ありがとう」と言われた
そうじの時、先生が「あそこと、あそこと。」と言われたので、私が全部ふいたら「ありがとう」と言ってくれた
プリントを配るときに「ありがとう」と言われた
うれしい
友達がお皿を割って片付ける時、手伝ったら「ありがとう」とほめられた
2年オープンをきれいにしたら「ありがとう」と言われた
数の授業が終わった時、黒板についている掲示物をはがすのを手伝った
先生のおそうじを手伝った

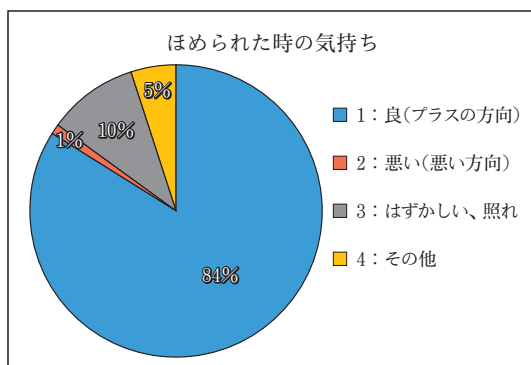
### 《考察》

3の分類の回答からは、「ありがとう」と感謝の言葉をかけられることも、児童はほめられたと感じることが分かった。そのため、教師の

知らず知らずのうちの言葉掛けも児童にとってはほめられたと感じる事があるということがいえる。

## 2) 児童・質問2の結果

質問2…1の質問で書いたほめられた時、あなたはどのような気持ちになりますか。  
(いくつでも)



質問2の結果は、「うれしい」や「またがんばろうと思った」等、ほめられたことがプラスの方向に働いたとする回答が8割以上もあった。また、「はずかしい」「照れくさい」等、ほめられることが恥ずかしく照れてしまうという回答

は、全体の1割を占めた。はずかしいと思うという回答の大半が、4年生以上の児童に見られ、学年が上がるにつれ人前でほめられることが恥ずかしいと感じるようだ。しかし、その一方で「うれしくない」という回答も全体の1%だけあった。うれしいと感じるという回答の中でもうれしくない場合もあると答える児童もいた。理由として、「うれしいけど何回も聞いているとあまりうれしくない」という意見が挙げられた。また、教師とのことではないが、「自分よりできる人が自分のことをほめてくれると本当かなと思う」というような意見も見られた。

## 《考察》

たいていの児童はほめられると嬉しいと感じているが、何回もほめられるような子はほめられることがあたりまえに感じてしまうのか、嬉しいと感じない児童も出てくるようだ。そこから、常に児童の新しい出来事やいいところをほめることが効果的なのではないか。

## 3) 教師・質問1の結果

回答者No.	性別	担当学年	教師歴	担当教科	質問1：学校生活の中で児童をほめる時、こういった意図や理由でほめることが多いですか。
1	女	6	7	国語 図工 家庭科	学習目標に向かって活動している時。常にほめることを意識しないと忘れがちになる。 少し集中力に欠ける時に改めて、目標を持って活動のやる気を出させたい時ほめるようにしている。 何か指導しなくてはならないことがある時は、ほめ→注意orしかる（指導）→ほめの流れを意識すると効果があります。
2	男	6	10	算数	生活の中で自信をつけさせたい。ほかの子に気がついてほしい。などと意図的にほめることもある。 また、先生がほめた後、みんなはどう思う？と投げかけることで、たくさんの人（先生＋友だち）から認められたと思う子が増えた。 授業中は、点数が良いという理由では、あまりほめない。特に、自分だけ課題が終わって待っている子はほめない。（私は）他の子に教えたりしている子とほめることで学び合いを活発にする手法をとることが多いのがその理由。
3	女	4	5	体育	持続学習に継続的に取り組んでいる。ランチの準備や配りものなど率先して手伝ってくれている。こちらが言おうとしたこと、やろうとしたことの先を読んで他の子に声をかけたり言われる前に行動したりしている。など日頃伝えている「当たり前前のことが当たり前前にできる」+αができる児童に対して他の子にもわかるようにほめる。その姿勢を続けてほしいため。他の児童にもできるようになるといいな…という願いも込めて。 「当たり前前のことが当たり前前にできる」これが、できた児童に対しても「できているよ！その調子！」という意味でちょくちょくほめる。

4	女	2	2	算数	自分から進んで取り組めた時（汚れていたら掃除をする、片付けをするなど） →言われてからやるのではなく、自分で気づいて取り組む姿勢が大切だと児童に 伝えたいから。
5	女	4	7	算数	いいなと思う子の姿をクラス全体に広げたい。落ちているものを拾って、ロッカー に入れている子どもがいたら「ありがとう」とほめる。それを見ていた他の子ども が、あれっていいことなんだなと感じ、その行動が広がっていく。また、クラ ス作りにもなる。ほめることで、先生が良く見てくれていると子どもが感じ、信 頼関係を作ることになる。 学年が上がるにつれて、自己肯定感の低い子どもが増えるので、一人一人の自己 肯定感を上げるため。

### 《考察》

質問1の結果からは、教師は児童のやる気を出させたい時や、児童が自ら行ったこと、率先してやったことに対して、ほめていることが分かった。また、児童との信頼関係づくりやクラス作りにもほめることは有効であると教師は考えていることが分かった。さらに、児童の観察結果も考え合わせると、ほめ言葉を使う時の教師側の意図としては、

- ・クラス全体の前でほめるときの意図として、

クラス全体に注目してほしい時や、気付いてほしい時に行う。

- ・いい行動をほめる時は、名前も付けてほめることでその子に注目させる。
- ・言葉はほめているが、意味はその逆である言葉を児童にかける時は、そのことを本人だけでなく、クラスの全体に気を付けてほしかったり、自覚してほしかったりする。  
ということが明らかになった。

### 4) 教師・質問2の結果

回答者 No.	性別	担当 学年	教師 歴	担当 教科	質問2：学校生活の中で、児童をほめた時に印象に残った出来事がありましたら、その時の様子をできるだけ詳しく教えていただきたいです。
1	女	6	7	国語 図工 家庭科	兄弟のことをほめた時、(お兄さんががんばったことを弟さんに伝えた) 弟さんがとてもうれしそうにしていた。 本人だけでなく、結果を出したにかかわった子どもや、家族をほめることで、本人の喜びが増すことに気付かされました。
2	男	6	10	算数	先日、ランチに来て準備をしない子どもが多い中、3人の名前をあげ帰りの会で大いにほめた。次の日、その人数が格段に増えた。 6年生の授業では、「教えた」「教えられた」の関係を図にさせている。4月当初の教え合いのレベルは低かったが、できている子を大いにほめた。 また、目に見える形で、その子の名前を黒板に書いた。それから、今に至るまで、学び合いの輪は広がっている。
3	女	4	5	体育	やんちゃで悪い意味で目立つ児童をほめた(配りものの手伝いやそうじに取り組む姿勢) ところ、その児童は喜んでそれ以降も行ってくれるとともに他の児童のその子に対する見る目が変わった。(「やんちゃだけどやる時はやる」「いいところもある」など)
4	女	2	2	算数	今年の春頃、今の2年生の児童が、朝登校し、自分から止まって大きな声であいさつをしていたので、学年やクラスでとてもステキなあいさつだとほめた。そうしたら、多くの児童が気持ちの良いあいさつをしてくれるようになった。
5	女	4	7	算数	特別なことはあまりない。一つ一つのことを当たり前ほめている。ほめてやると、子どももまたほめてほしいからやる。

### 《考察》

質問2の結果から、児童は、自分以外のことでも自分に関わった人や物がほめられると嬉しいと感じることが分かった。実際に、児童へのアンケートの回答にも自分が持ってきたものがすごいねとほめられた時にほめられていると感じたというものがあった。また、ほめる際には、

名前を付けたり、クラス全体の前で児童をほめたりすることが他に児童への刺激となり効果的であることが分かった。児童からのアンケートでも、自分の名前をつけての言葉かけがうれしいとの回答が多数あったので、効果的だと考える。

### 5) 教師・質問3の結果

回答者No.	性別	担当学年	教師歴	担当教科	質問3：児童との間に、ほめた意図や理由についてズレを感じたことがありますか。そう感じた時は、どういう時でしたか。また、そう感じた時どのように対応しましたか。
1	女	6	7	国語 図工 家庭科	ほめた意図をほめられた側が異なった解釈をする場面はあまりない。低学年は、ほめ、高学年は感謝に切りかえて対応していることが多いと思う。
2	男	6	10	算数	あまりない。そうならないように必ず「なぜ良いのか」を伝えたり、みんなで考えたりしている。 ただ、ほめた子どもは嬉しくて「よい行動」をつづける。 一方で、「ほめられようとしている」「(先生に) 気に入られようとしている」と感じる子が中高学年からは出てくる。そこには気を使っている。ほかの子もほめるなど対応している。
3	女	4	5	体育	なし
4	女	2	2	算数	思い浮かぶエピソードは特にありません。
5	女	4	7	算数	あったかもしれないけど覚えていない。逆に叱った時の方が多い。言葉を大切にしているので、ない。

### 《考察》

質問3の結果からは、教師側は、児童とのほめ認知のズレは感じていないことが多いことが分かった。また、児童はほめられれば嬉しいと考えていることも分かった。ほめられて嬉しくないという児童がいるということに言及した回答はなかった。教師側は、ほめることは良い方向にしか働かないと考えている場合もあるのではないか。

あったが、児童からの回答では、「テストの点数をほめられた」というものが最も多い回答であった。教師は、テストの点数だけをほめてはいないのかもしれないが、児童にとってはテストの点数が良いからほめられたと感じている場合もあるのではないかと考えた。こうしたことも、ほめ認知のズレに繋がってしまうのではないか。

### 総合的考察

現在の小学校現場において、子どもを叱ってはいけない、という風潮があるようだ。そのため、うまくほめることは、学校教育においてとても重要な位置づけにあると考えられる。

今回調査をする中で、教師にほめられた際に、ほめられたと感じなかったり、嬉しいと感じなかったりする児童が一部の例だけが見られた。教師の側

児童と教師のアンケートを比べて児童と教師の間に起こるほめ認知のズレについて考えてみると、児童が褒められてうれしいことと教師がこういう時にほめるということが一致しているところとそうでないところがあるということが分かった。例えば、教師の回答に「点数が良いという理由ではあまりほめない」というものが

は、「児童はほめられると嬉しいだろう。」と考えていることが多く、ほめに気づかないとかほめられて嬉しくないと感じる児童がいるとは考えにくいようである。このことから、ほめ認知のズレが存在する可能性は十分あると考えられる。

教師が、質の高いほめ行動をするためには、ほめに対する認知のズレがありうることをわきまえ、とにかくたくさんほめればよいということではなく、相手や状況をよく理解をした上で、ほめたことが確実に相手に伝わり、場合によっては直接ほめた相手だけでなくクラス全体に効果が及ぶように留意することが、必要であろう。

#### 〈引用・参考文献〉

- 高崎文子 2017 「ほめ理由認知のズレ要因の検討：小・中学校場面と大学の場合の比較」 熊本大学教育学部紀要 66 119-126.
- 高崎文子 2018 「ほめへの態度」の発達的变化とその関連要因の検討 発達心理学研究 29 13-21.

